

2

がん検診等の種類・内容

市で実施しているがん検診、がん検診以外の検診（健診）を紹介します

※年齢は令和6年度中（2024年4月～2025年3月）に達する年齢で表記しています
 ※費用はそれぞれの記載のとおりですが、70歳以上やその他条件に該当する人は無料です。
 詳しくは、申し込んだ検診ごとに送付される個人通知をご確認ください。

胃がん検診（内視鏡）

内 容

問診・胃内視鏡検査

対象年齢

50歳以上の偶数年齢の人

自己負担額

3,000円

のどの奥を麻酔するための薬を飲んでから鼻や口から内視鏡を挿入し、胃の中を直接観察します。胃の中の小さな病変を見つけることができます。

胃がん検診（バリウム）

内 容

問診・胃部エックス線検査

対象年齢

30歳以上の人

自己負担額

800円

コップ1杯程度のバリウムを飲み、胃袋にバリウムを付けて、さまざまな角度からエックス線撮影をします。

●対象年齢が、内視鏡検査・バリウム検査の両方対象となる方は、どちらか一方の検査を選んでください。

肺がん・結核検診

内 容

問診・胸部エックス線検査

対象年齢

30歳以上の人

自己負担額

無料

肺がん・結核検診の胸部X線検査、胃がん（バリウム）検診の胃部X線検査とはレントゲン撮影のこと。撮影した画像は複数の医師が別々に確認し、がんの影が写っていないか調べます。



肺がんは日本人のがん死亡数第1位。最大の原因はタバコです。胸部エックス線検査は気軽に受けられる検査で、肺がんの影が写っていないか調べます。また、肺がん・結核検診の問診中、肺がん高危険群に該当する方は喀痰検査をおすすめします。